

台風二十三号のおそろしさ

豊岡市立田鶴野小学校

五年 伊崎秀範

平成十六年十月二十日、あの、人々の幸せをうばった台風二十三号が、豊岡に上陸した。その日は、朝から休校で、自宅待機だった。その時は、そんなに雨もふらなかつた。ぼくは、また、いつものようにすぐ去って、明日は、晴れるだろう、と思っていた。しかし、午後三時くらいから、雨は、はげしくなり、風は、いっそう増していった。父は、その日は、研修で、いなか、た。母は、その日は、帰りがおそくなると言っていた。家にいるのは、祖母と、妹と、ぼくだけだった。ぼくは、その時、いやな事が起こるとい

うような気がして、必要な物は、リョックにため、大切な物は、ぼくの部屋のクローゼットの中の一番高い所においた。祖母は、時間かたつと、よく、テレビを見て、けい報などをチェックしていた。

午後六時、台風はピークをむかえ、すごい

風は強まり雨とい、しよにまよきたいた。

母が帰、てきて、近くの公民館にゐなりました。

中では、みんな不安そうな顔でみちていた。

ぼくは、その顔を、今もあわれられない、ぼ

う災む線は、鳴りやむふともないくろい、鳴

りひびいた。

雨は、少し弱くな、たので、家に帰、てね

る事にした。

この大きな台風は、人に、台風のおそろし

さを、改めておもい知ろせたことだろう。

「天災は、あめられたころに、や、てくる」

この言葉は、昔から使われてきた言葉だ。

まさに、この豊岡市の人か、台風をあすれ

てしまい、そんな時にこの台風二十三号がや、

てきた、そんな気がする。

ぼくは、この台風二十三号で、台風のおそ

るしさを、改めて実感した。

この台風の記憶は、人の心に、し、

まがみつけられることだろう。

兵庫県立豊岡市立豊岡小学校
豊岡市立豊岡小学校
豊岡市立豊岡小学校